

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第47週[11月21日～11月27日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

つつが虫病について

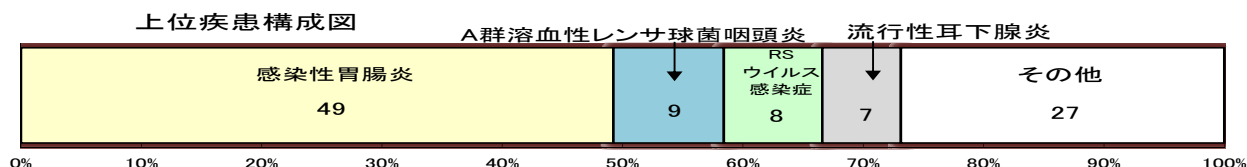
中央東保健所から搬入された検体からつつが虫が検出された。この秋冬シーズンでは初めて検出された。つつが虫病は *Orientia tsutsugamushi* を起因菌とするリケッチア症であり、ダニの一種つつが虫によって媒介される。患者は、汚染地域の草むらなどで、有毒ダニの幼虫に吸着され感染する。潜伏期は5～14日、典型的な症例では39℃以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになる。高知県では毎年2～9例報告されている。予防としては、ダニの吸着を防ぐことが最も重要であり、むやみに草むらなどに入らない、立ち入る際にはダニの吸着を防ぐような服装をすること、作業後には入浴し吸着したダニを洗い流すこと、などである。

県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：マイコプラズマ肺炎

- 朝晩の気温がさらに低くなっており、体調管理に十分注意が必要である。
- 感染性胃腸炎**は全ての地域で増加し、総数は前週の約2倍に増加した。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(高幡：注意報→注意報)**は大幅な増加はみられていないが、高幡では注意報値を越す流行が続いている。
- RSウイルス感染症**は高知市と中央東で増加し、総数は前週の2.5倍に増加した。例年12月に入ると報告数が急増しており、今後の推移に注意が必要である。
- 流行性耳下腺炎(幡多：注意報→注意報)**は総数は前週の約2/3に減少したが、幡多では引き続き注意報値を越している。
- 手足口病(安芸：注意報→注意報)**は中央東を除く地域で減少または横ばいとなり、総数は前週の約6割に減少した。しかし、安芸では引き続き注意報値を越している。



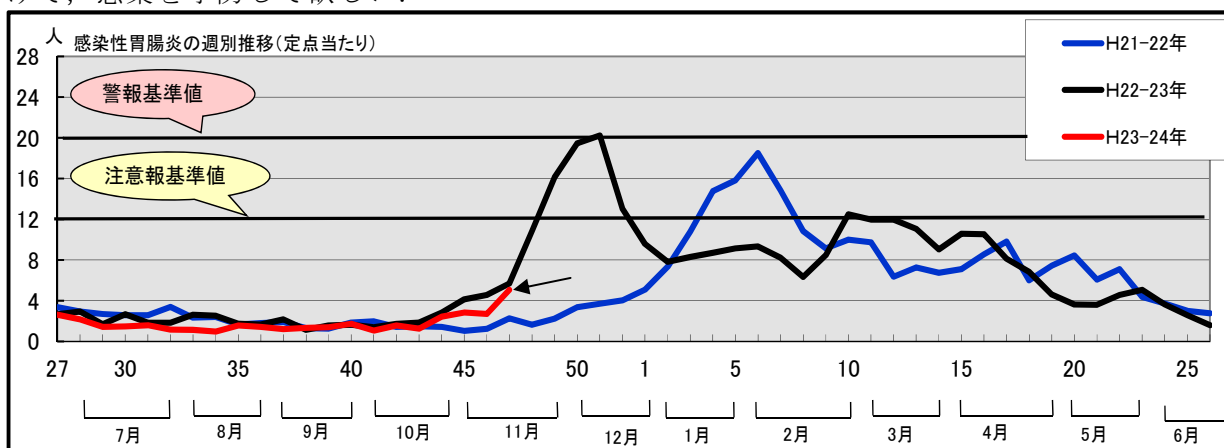
地域別感染症注意報・警報発生状況

第47報 (2011年11月21日～2011年11月27日)



感染性胃腸炎：今週 5.07 （注意報値：12.00 警報値：20.00）

総数は前週の約2倍に増加し、特に高知市で急増が続いている。例年11月下旬から報告数が急増し、12月中旬から下旬に流行のピークを迎えている。今後は手洗い・うがいなどを普段以上に心がけて、感染を予防して欲しい。



インフルエンザ：今週 0.06 （注意報値：10.00 警報値：30.00）

今週は安芸で2例、高知市で1例報告され、迅速キットの結果は全てA型陽性であった。例年12月中旬から報告数が急増しており、今後の推移が注目される。

マイコプラズマ肺炎：今週 0.57 （注意報値：0.50 警報値：2.00）

高知市でさらに増加し、引き続き注意報値を超した。搬入された検体からは、*Mycoplasma pneumoniae* 3件が検出されており、今後も注意が必要である。

検査情報

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
47	突発性発疹症	1歳 女	高知市	Human herpes virus 6
47	マイコプラズマ肺炎	3歳 女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
47	マイコプラズマ肺炎	15歳 男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
47	マイコプラズマ感染症	5歳 女	中央東	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

前週以前に搬入され検出された病原体

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
45	上気道炎	3歳 女	高知市	Respiratory syncytial virus

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 1例（80代女）《須崎》（今年174例）

○ 定点からの地域ホット情報

幡多

《さたけ小児科》：マイコプラズマ感染症 1例（11歳女）

須崎

《もりはた小児科》：感染性胃腸炎が増加傾向となる

中央西

《石黒小児科》：単純ヘルペス 2例（6,9歳女） ヘルペス性歯肉口内炎 1例（1歳女）

《くぼたこどもクリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（8歳女）
感染性胃腸炎の1例（8ヵ月男）は須崎市

《日高クリニック》：アデノウイルス扁桃炎 2例（11ヵ月男, 2歳女）
マイコプラズマ気管支炎 1例（3歳女）

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 4例（1~4歳男女）
感染性胃腸炎の1例（8歳女）はカンピロバクター腸炎
百日咳の1例（36歳女）はDPT済み

《高知医療センター内科》：インフルエンザの1例（15~19歳女）はA型陽性、予防接種歴なし

《町田病院》：流行性角結膜炎の1例はアデノウイルス陽性

中央東

《高知大学医学部付属病院小児科》：感染性胃腸炎の1例（2歳女）はサルモネラ腸炎

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 2例（7,9歳）

安芸

《県立安芸病院小児科》：インフルエンザの1例（4歳男）はA型陽性

《田野病院小児科》：インフルエンザの1例（1歳女）はA型陽性
マイコプラズマ肺炎 2例（14歳男）

全国情報第45週（11/7～11/13）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核347例

3類感染症：細菌性赤痢6例、腸管出血性大腸菌感染症42例（有症者20例、うちHUS 1例）

4類感染症：A型肝炎3例、チクングニア熱1例、つつが虫病24例、日本紅斑熱4例、ポツリヌス症1例、レジオネラ症7例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、急性脳炎1例、クリプトスポリジウム症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群23例（AIDS 4例、無症候18例、その他1例）、ジアルジア症1例、梅毒9例、破傷風1例、風しん4例

報告遅れ：日本紅斑熱1例、レジオネラ症1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

◆感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は多種多様な原因によるものを包含する症候群名である。全国約3,000カ所の小児科定点からの患者発生報告数が増加するのは冬季であり、その大半はノロウイルスやロタウイルス等のウイルス感染を原因とするものであると推測される。また、患者発生ピークは例年12月中となることが多く、同時期の感染性胃腸炎の、特に集団発生例の原因の多くはノロウイルスによるものであると考えられている。

ノロウイルス感染症の潜伏期間は数時間～数日（平均1～2日）で、主な症状は嘔気・嘔吐及び下痢であり、嘔吐・下痢は1日数回から多いときには10回以上のこともある。しかし、症状持続期間は数時間～数日（平均1～2日）と比較的短く、以前から他の病気がある等の要因がない限りは、重症化して長期にわたり入院を要することは少ない。また、発熱の頻度は高くはない。治療では特効薬はなく、対症療法となるが、最も重要なことは水分補給によって脱水を防ぐことである。

ノロウイルスの感染経路としては、以前は食中毒としての経口感染がよく知られていたが、患者や無症状病原体保有者との直接もしくは間接的接触による接触感染や、患者の嘔吐物や下痢便を介した飛沫感染等のヒト→ヒト感染があり、その感染力は非常に強い。乳幼児の集団生活施設である保育所や幼稚園、小児の集団生活施設である小学校等においては、これら接触感染や飛沫感染等により、集団発生が繰り返されてきているものと推察される。また、2006年12月に東京都のホテルにおいて発生した集団感染事例のように、「吐物や下痢便の処理が適切に行われなかったために残存したウイルスを含む小粒子が、掃除などの物理的刺激によって舞い上がり、それを間近とは限らない場所で吸引し、経食道的に嚥下して消化管へ至る感染経路」である「塵埃感染」が発生する場合がある。ノロウイルスの感染予防には、流水・石けんによる手洗いの励行と吐物や下痢便の適切な処理がきわめて重要である。

感染症発生動向調査では、感染性胃腸炎は全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいており、2011年第45週の定点当たり報告数は3.94（報告数12,388）と第42週以降増加が続いている。都道府県別では山口県（10.02）、大分県（9.53）、宮崎県（7.25）、岩手県（6.85）、愛媛県（6.81）、香川県（6.40）、福岡県（5.60）の順となっており、41都道府県で前週の報告数よりも増加がみられている。2011年第36～45週の定点当たり累積報告数は29.04（累積報告数91,117）であり、年齢群別では0～1歳26.0%、2～3歳20.6%、4～5歳16.2%、6～7歳9.9%の順となっている。

感染性胃腸炎の報告数は11月に入ると急増し、12月中にそのピークを迎えるという流行をほとんどの年で繰り返してきている。今後の感染性胃腸炎の発生動向には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(46週)	高知県(47週末累計) H23/1/3~H23/11/27
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	2		1				3 (0.06)	1 (0.02)	1,012 (0.21)	12,344 (257.17)
小児科	咽頭結膜熱			1				1 (0.03)	3 (0.10)	800 (0.26)	322 (10.73)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	15	5	5		28 (0.93)	25 (0.83)	5,375 (1.71)	1,987 (66.23)
	感染性胃腸炎	6	19	92	22	8	5	152 (5.07)	81 (2.70)	14,736 (4.70)	7,079 (235.97)
	水痘	3	11	3				18 (0.60)	15 (0.50)	4,500 (1.44)	1,674 (55.80)
	手足口病	4	2	7				17 (0.57)	27 (0.90)	3,108 (0.99)	3,290 (109.67)
	伝染性紅斑		2	2	2	1	8	15 (0.50)	21 (0.70)	819 (0.26)	502 (16.73)
	突発性発疹		2	5	2	2	1	12 (0.40)	18 (0.60)	1,793 (0.57)	672 (22.40)
	百日咳			1				1 (0.03)	1 (0.03)	86 (0.03)	42 (1.40)
	ヘルパンギーナ	1	2	1	1	1	3	9 (0.30)	12 (0.40)	304 (0.10)	956 (31.87)
	流行性耳下腺炎		2	9	1	1	7	20 (0.67)	27 (0.90)	2,087 (0.67)	462 (15.40)
	RSウイルス感染症		8	17				25 (0.83)	10 (0.33)	2,254 (0.72)	696 (23.20)
	眼科	急性出血性結膜炎									172 (0.25)
流行性角結膜炎				1				1 (0.33)	5 (1.67)	340 (0.50)	53 (17.67)
基幹	細菌性髄膜炎								1 (0.14)	8 (0.02)	6 (0.86)
	無菌性髄膜炎			1				1 (0.14)		14 (0.03)	24 (3.43)
	マイコプラズマ肺炎			4				4 (0.57)	3 (0.43)	585 (1.26)	126 (18.00)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									32 (0.07)	11 (1.57)
計 (小児科定点当たり人数)	16 (7.50)	51 (7.29)	160 (13.97)	33 (11.00)	18 (9.00)	29 (5.80)		307 (10.00)			
前週 (小児科定点当たり人数)	16 (8.00)	27 (3.86)	114 (9.52)	36 (12.00)	14 (7.00)	43 (8.60)			250 (8.02)	38,025	30,247 (846.57)

定点当たり

第47週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(46週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ	0.50		0.06				0.06	0.02	0.21
小児科	咽頭結膜熱			0.09				0.03	0.10	0.26
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	1.36	1.67	2.50		0.93	0.83	1.71
	感染性胃腸炎	3.00	2.71	8.36	7.33	4.00	1.00	5.07	2.70	4.70
	水痘	1.50	1.57	0.27				0.60	0.50	1.44
	手足口病	2.00	0.29	0.64				0.57	0.90	0.99
	伝染性紅斑		0.29	0.18	0.67	0.50	1.60	0.50	0.70	0.26
	突発性発疹		0.29	0.45	0.67	1.00	0.20	0.40	0.60	0.57
	百日咳			0.09				0.03	0.03	0.03
	ヘルパンギーナ	0.50	0.29	0.09	0.33	0.50	0.60	0.30	0.40	0.10
	流行性耳下腺炎		0.29	0.82	0.33	0.50	1.40	0.67	0.90	0.67
	RSウイルス感染症		1.14	1.55				0.83	0.33	0.72
	眼科	急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎				1.00				0.33	1.67	0.50
基幹	細菌性髄膜炎								0.14	0.02
	無菌性髄膜炎			0.20				0.14		0.03
	マイコプラズマ肺炎			0.80				0.57	0.43	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.07
計 (小児科定点当たり人数)	7.50	7.29	13.97	11.00	9.00	5.80		10.00		
前週 (小児科定点当たり人数)	8.00	3.86	9.52	12.00	7.00	8.60			8.02	

2011年週報推移(定点当たり)

